**SSKU** 

潮騷通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

### どっこい生きてます!



### 潮騒 JTC10 周年フォーラムを 終えて思うこと



早いもので師走を迎えましたが、皆様お変わりありませんか。お陰様で潮騒ジョブトレーニングセンターは 11 月 15 日、鹿嶋勤労文化会館で節目となる10 周年記念フォーラムを開催できました。あいにくの天気にもかかわらず、当日ご参加頂いた多くの皆様に改めて感謝申し上げます(=3~5ページに記事)。フォーラムでは私も10年の歩みを振り返り、今後の施設運営への決意を述べさせて頂きましたが、話を始めると感極まって言葉に詰まってしまいました。来賓の方々や支援者から過分な評価を頂き、自分のやってきたことが間違いなかったと確信できたのと、これまでの苦労が報われたことを実感して迂闊にも涙腺が緩んだのです。60歳まで破滅の人生だったことが、今は嘘のようです。不思議な運命の導きによって自分が回復の歩みを続けながら、依存症に苦しむ仲間を支援する活動が続けられることに感謝する毎日です。多くの人たちに支えられて今日の自分があることを、改めて節目の 10 周年記念フォーラムで気づくことができました。

振り返ると、私には回復の歩みをスタートさせて以降、思い当るいくつかのターニングポイントがあります。忘れられないのは、志を同じくする少数の仲間たちと孤立無援の状況下で独立し、困難な施設運営を強いられた頃の思い出です。当時はまだオウム事件の余波が残っていたこともあってか、入寮者を潮騒に送ろうとしていた他の自治体からの問い合わせに、地元の行政担当が「潮騒?得体の知れない施設ですよ!」と説明したことを知りました。「いくら知名度のない任意団体だとしても、ニュートラルな立場にある行政が言うことではないだろう。悪意に満ちた流言で俺たちの活動を潰したいのか…」。怒りが収まらず窓口に抗議しようとしましたが、少し感情が収まるのを待って私のスポンサー(相談者)のトム(坪倉洋一氏、現渋谷ダルク代表)さんに意見を求めました。するとトムさんは、こう助言しました。「ユタカさん。それは間違いだよ。ダルクのプログラムは何よりも自分を変えるためのもの。私たちは対立や競争と一線を画すことで回復していけることを忘れないで。怒りと憎しみ、争いからは何も生まれませんよ。"許しと寛容"があれば周囲もやがて"共感と癒し"に変わっていきます」と。この時、私は自分の未熟さを恥じました。

とはいえ私も人の子です。つい10数年前までは任侠道こそ人生の全て、男の美学の極致として生きてきただけに、今でも怒りの感情に任せて行動することがあります。でも、そういう時にはトムさんのあの助言が頭に浮かびます。そうして短気だった私も、随分と辛抱強くなりました。それが潮騒JTCの真骨頂である、施設受け入れのハードルを低くして「何度でも失敗を認める」姿勢になり、他にはない粘り強い就労支援の活動に繋がっているのだと思います。「過去の囚われより、未来の可能性を!」をモットーに、10年の歩みを経て新たな地平に辿り着いた私ですが、最後は道端に倒れるまで生涯現役を貫き通す決意です。引き続き、皆様のご支援を宜しくお願いします。 (センター長栗原豊)

### 潮騒JTC 10 周年記念フォーラム

「ターニングポイント 〜更なる 10 年へ」

NPO法人・潮騒ジョブトレーニングセンター(潮騒 JTC)は11月15日、地元の鹿嶋勤労文化会館(鹿嶋市宮中)で「潮騒ジョブトレーニングセンター10周年記念フォーラム」を開きました。当日はあいにく雨模様の天候にもかかわらず、入寮者やダルク関係者、家族会、支援者ら延べ500人以上の参加を得て大いに盛り上がりました。今回は節目とあって「ターニングポイント~更なる10年へ」をテーマに講話や討論、太鼓パフォーマンスなど多彩な企画内容で構成し、潮騒の前史を含む過去10周年の歴史と意義を確認すると同時に、今後の施設運営ビジョンを展望しました。このため午前10時から午後5時頃までの長丁場のプログラムとなりましたが、参加した支援者の皆さんからは励ましの言葉や今後に向けての熱い期待が寄せられました。今年は秋季イベントが立て込む多忙な中でのフォーラム開催となりましたが、準備に追われた栗原豊センター長をはじめスタッフー同の苦労が報われました。



### トークセッションで各リーダーが 潮騒の熱い魂を伝える!

プログラムは午前10時からの開会式で始まり、法務省 水戸保護観察所長の大澄穂高氏や茨城県潮来保健所 保健指導課長の大森葉子氏、鹿嶋市保健福祉部次長の 小原よし江氏、鹿嶋市社会福祉協議会の内堀和則氏、秋 元病院長の安野勇氏、鹿嶋市議会議員の根崎彰氏ら来 賓の皆さんから挨拶を頂き、それぞれの立場から潮騒 JTC が幅広く展開する依存症回復の取り組みや独自の 就労支援活動に対しての熱い期待と評価が寄せられま した。

続く支援者の紹介では、施設の草創期から下支えを頂いている鹿嶋市議会議員の立原弘一氏や猿田農場を提供してくれている増古四郎氏、当初より潮騒家族会の運営に尽力している会長の杉本勇藏氏らが潮騒や栗原豊センター長との関わりを話し、支援者の皆さんを紹介した栗原センター長も「地元の支援者の存在がなければ潮騒の今日はなかった」と感謝の意を表しました。引き続いて、映像メッセージとして、先のダルク30周年フォーラムに出席した栃木ダルクなど近隣ダルクのリーダー10人から頂いた「潮騒JTC10年祝いのスピーチ・メッセージ」と、先月号の表紙でも掲載した鹿嶋市名誉市民で世界サッカーの重鎮であるジーコさんからの特別メッセージ映像が流されました。

その後、午前のメーン企画だったトークセッション(討論会)「潮騒の熱い魂を伝えたい!」に移り、潮騒各部門

のリーターたちが、それぞれの活動紹介や自身が潮騒に 繋がった経緯、栗原センター長との出会いなどを思い出 深く振り返り、今後の課題にも言及しました。登壇したの は▽ツカ (デイケア)▽ユウ (農業隊)▽ヒトシ (司会、潮 騒食堂「おらげのかまど」代理)▽ルミ (女性ハウス)▽ シュン(作業隊)▽マコト (高齢者施設「百寿亭」)—の皆 さんでした。各発言者からは主に潮騒JTCを特長づける 就労支援活動の意義が強調され、「仲間の中でこそ回復 できる」という本音のトークが垣間見られました。

今回のトークセッションでは、当事者から農業隊や作業隊の活動の成果も明かされたほか、一方で女性施設や自前の食堂と農産物直売所、高齢者デイケア施設などを運営していくことの人材やノウハウ不足などでの難しさも語られました。「出口」に繋がるこれら就労支援や高齢者の受け皿となる活動は全国のダルクにとっても待ったなしの課題だけに、潮騒独自の就労プログラムの充実と高齢者問題へのいち早い対応は参加者にも新鮮に映った様子でした。各リーダーらは慣れない「檀上トーク」にやや硬さをのぞかせながらも、普段のミーティングでは聞けない"潮騒の仲間たちやセンター長の秘話"が興味深く語られていました。

### ■総勢35人が舞台上で勇壮・華麗に打ち鳴らす和太鼓は圧巻

午後のプログラムは、地元の実力派和太鼓グループ 「鹿島灘太鼓」と潮騒太鼓連中の和太鼓セッションで冒

### 潮騒JTC 10周年記念フォーラム







**■夫さん** 日本ダルクスタッフ マーシーさん

頭から盛り上がりました。灘太鼓創設者の島田正之代表の分かり易いトークで各演奏曲目が紹介され、大小の和太鼓や篠笛、鉦(かね)、纏(まとい)なども登場して賑やかな和太鼓の競演・演舞となりました。お囃子の曲に加え、島田さんの創作曲や纏が登場する小桜返し、跳ね込み太鼓、すずめ踊り、大漁旗が舞う大漁節など工夫を凝らした演出が光っていました。総勢35人に及ぶメンバーが舞台上に所狭しと陣取り、多彩な和太鼓が勇壮・華麗に打ち鳴らされる様子は圧巻でした。灘太鼓メンバーがリードしたとはいえ、潮騒太鼓連中も日頃の練習の成果を十分に発揮し、前回よりも格段に向上した音色を会場いっぱいに響かせることができました。

この後、広報部のマサヤさんが独力で創り上げた動画「栗原&潮騒10年の歩み」がビデオ上映されました。施設の歴史や活動内容、栗原センター長が主唱する「潮騒依存症村構想」が約20分で分かるように工夫され、参加者の関心を集めていました。

そして、この日の主役でもある栗原センター長が登壇。 薬物とアルコールに依存して苦しんだ体験を乗り越え、「仲間は私にとって疑似家族。一緒に暮らすことで私も回復が図られている。これからも就労支援に力を入れ、農業分野で6次産業化を目指しながら、潮騒の特徴ある活動を更に推進していく」と力強く決意を述べました。センター長は何度か感激で涙する場面もあり、幾多の困難を乗り越えてきたセンター長10年の歩みの重さがうかがえました。

### 社会内で回復に取り組めるよう 欧米型の制度や環境づくりを

さらにプログラムは、栗原センター長のスポンサー(相談者)でもある渋谷ダルク代表のトム(坪倉洋一)さんに続き、この日のハイライト講話に移りました。今年も潮騒フォーラムでは、日本ダルク代表の近藤恒夫氏と同スタッフのマーシー(田代まさし氏)がゲストスピーカーを務めてくれました。近藤さんは「依存症は病気、病気の人を刑務所に送るのは不合理でおかしい。国家財政上も大きなマイナス」として、社会内で回復に取り組めるよう欧米型の制度や環境づくりを求めました。一方、マーシーは受刑者だった頃の体験を踏まえ「刑務所では依存症の回復は望めず、ヤク中仲間の新たな出会いの機会を増やすだけ」として、ダルクに繋がって初めて「自分が回復できる」という希望を持ったことを力説しました。かつて芸能界で"ダジャレの帝王"の異名を取った片鱗をうがわがせる軽妙なトークで、終始会場を和ませてくれました。

プログラムの最後は潮騒エイサー隊による「鹿嶋琉球太鼓」の演舞でした。今回は潮騒JTCと協力関係にある首都圏ダルクのいくつかが同日イベントと重なったことから千葉ダルクや相模原ダルク、渋谷ダルクの有志が助っ人に参加しただけでしたが、それでも総勢30人を超えるメンバーがカラフルなエイサー衣装に身を包み、一堂に会して琉球太鼓の演舞を披露する派手なステージが実現しました。今年はサプライズ企画として、合い間に車いすの灘太鼓メンバーが、ペアの女性と組んで車いす社交

### 潮騒JTC 10周年記念フォーラム



ダンスを披露し、アジア大会でトップの成績を持つハイレベルで見ごたえのある素晴らしい車いすダンスを披露してくれ、会場からひときわ大きな拍手が送られていました。

このほか、沖縄エイサーには不可欠な白塗り顔の道化役「ちょんだら」が男女ペアで登場。これは新たに女性ハウスのメンバーが潮騒エイサー隊に加わったもので、別の女性メンバーも太鼓に挑戦していました。この"ちょんだら夫婦"の掛け合いトークが一層舞台を盛り上げ、最後には観客席の参加者もステージに上がり、例によって会場全体で大いに盛り上がりながらエイサーの舞台を締め括りました。

### |「自分はセンター長の本当の息子に、 | 親子に、家族になれた|

今回も細かい場面ではミスや手違い、時間管理のルーズさなど反省点があり、来年のフォーラムに宿題を残しました。特に昼食については、施設側の対応のまずさで弁当販売が混乱しましたことを、改めてお詫びします。またフォーラムの見どころの一つだったエイサー演舞が午後4時半過ぎの開始となり、会場の多くの皆様が帰宅されてしまったことも、プログラム進行上の反省点です。しかし、全体的な収穫としては掲げたテーマに迫ることができ、アンケートでもお褒めの言葉を数多く頂きました。潮騒にとって何よりも大きな成果は、最後の場面でヒトシさんが栗原センター長への手紙を読み上げ、「潮騒での活動に参加できたことで、自分はセンター長の本当の息子

に、親子に、家族になれた」と告白した場面でした。まさに「疑似的だとしても仲間こそが家族」(栗原センター長)を実証した瞬間でした。潮騒 JTC10 周年記念フォーラムを成功に導いて頂いた多くの皆様のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。(勝)

### 【潮騒 JTC10周年の位置づけ】

支援者の皆さんの中には「潮騒の活動はまだ10年 に満たないのではないか?」と疑問に思われる方も 多いと思います。確かに潮騒JTCとしての活動は 2008年9月からで、NPOに認証されたのは翌09年 12月なので、正確には7年ほどの活動歴です。しか し、私たちは栗原センター長が困難な状況の下で鹿 島ダルクから独立し、志を同じくする仲間と任意の 自主活動を始めた2005年秋を「潮騒の原点」と考え ています。孤立無援の中で依存症の回復を信じ、「鹿 嶋潮騒ダルク」を名乗って困難な歩みを続けた前史 の活動は無視できないもので、それらを含めて今年 を潮騒の10周年と位置付けました。独立時のボタン の掛け違いなどが尾を引き、いまだダルク内では潮 騒に対する誤解が感じられる場面があります。 施設 名を「ダルク」から「ジョブトレーニングセンター」に 替えたことなどから、ともすると潮騒はダルクの傍流 に位置すると見られがちですが、外側からの"見られ 方"よりも、「今自分たちがどんな活動をしているか」 を今回のフォーラムでは訴えました。お陰様で、終了 後にはたくさんの方から「とても良いフォーラムだっ た」と評価を頂きました。(潮)

### エイサー&灘太鼓メンバーとのコラボも

今年も潮騒が神栖市芸術祭に参加

神栖市の市制施行10周年記念に位置付けられた平成27年度「神栖市芸術祭和太鼓発表会」が11月3日午後、鹿嶋市と隣り合う神栖市文化センター大ホールでありました。昨年に続いて潮騒太鼓連中が取り組むエイサー(琉球太鼓)が、実力ある鹿島灘太鼓や波崎はやうち太鼓保存会とともに熱いステージを繰り広げて会場を沸かせました。潮騒太鼓の指導者、島田正之さんが会長を務める神栖市和太鼓連盟の尽力で開かれているイベントで、とりわけ灘太鼓は幅広い曲目で会場に和太鼓の魅力を響かせました。連盟の歴史はまだ浅いですが、郷土の伝統的な芸能であり貴重な文化の和太鼓演奏を保存、継承するために頑張っています。

潮騒太鼓連中は島田会長から直接手ほどきを受けて2年弱ですが、前年よりもレベルアップした技術で見ごたえのあるステージを実現しました。今年も潮騒エイサーのメンバーと鹿島灘太鼓は車切り囃子に始まり、実り、跳ね込み太鼓、小桜返し、大漁節など全10曲を熱演しました。終了後には参加者が楽しみにしていた大抽選会があり、潮騒農場で取れた新鮮野菜や潮騒水田で収穫された新米のコシヒカリなどが提供され、喜ばれていました。栗原豊センター長は「初舞台だった昨年に比べると随分と技量が向上し、ハラハラせずに安心して見守れた。太鼓メンバーの回復ぶりを他の入寮者も見習ってほしい」と話していました。



### 下津施設のトイレ、階段も改修済み

平成 25 年度赤い羽根助成分で

潮騒通信9月号で平成26年度の赤い羽根共同募金助成を得て、鹿嶋市宮津台の下津ナイトケア(=NPO本部)施設内に念願だったエアコンを設置できたことを紹介しましたが、前年度(平成25年度)でも赤い羽根共同募金の助成により下津施設の老朽化したトイレの改修と3・11大震災(平成23年)で被災した階段の修復工事ができ、入寮者が快適な環境で回復活動に取り組んでいます。茨城県共同募金会による2年連続での助成への感謝を込め、遅まきながら改めてご報告します。

2年連続助成の先例となる25年度の応募に際して、施設老朽化所改修工事事業として申請したところ、心温まる100万円の助成金を頂き、改修工事が完了したものです。当時、下津ナイトケア施設には老朽化した和式トイレがあるものの、病気がちの入寮者や肛門に持病がある高齢者らには洋式トイレへの改修が切実な願いでした。また非常階段も老朽化により傷みが激しく、さらに3・11大震災が追い打ちかけて被災したことから、これに関する安全性の問題が急浮上していました。潮騒は財政力の弱い団体だけに自力での経費捻出に苦労しており、赤い羽根の助成認定は有難い限りでした。





既報の通り、潮騒ジョブトレーニングセンターは 11 月8日、つくば市西大橋のカスミつくばセンターで開かれたカスミグループ主催の「第23回〈わたしの企画〉応援します!」に参加し、沖縄の伝統舞踊エイサーや伝統芸能「鹿島灘太鼓」の演舞を披露しました。同イベントは、今年度企画が採択された 6 団体がセンター 2 階の大会議室などで、それぞれの企画の展示や実演を行ったものです。

難関を突破して採択された潮騒 JTC の企画は「世間は僕らを誤解している〜当事者の語りと太鼓で綴る依存症フォーラム〜」がテーマでした。依存症の回復証言の体験発表、展示パネル等を使った農業などの就労支援活動の紹介、回復プログラムで取り組むエイサーと和

太鼓の演舞により、依存症が回復できる病気であることを訴えました。カスミによる同企画イベントで依存症問題が取り上げられたのは初めてのことです。

残念ながらイベント当日は終日、雨模様の悪天候だったために一般市民らの来場はごく少数だったものの、潮騒のメンバーらはエイサーと和太鼓の演舞で参加団体の中でも存在感を示しました。これまで県南地域では薬物・アルコール依存症者が市民と交流するケースはほとんどなく、同イベントに参加した潮騒のメンバーらは「来場者は少数でも太鼓を叩いて回復していることをメッセージとして伝えることができたと思う」と語り、「この取り組みが市民の依存症者への偏見と誤解を取り除く第一歩になれば」と期待を寄せていました。



### 太鼓に出会えたことで人生を取り戻す一歩に

この日は、午前10時からメンバーらが潮騒の専用ブースに集まり、簡単に開会式をして、午前中は主に1階ホールでエイサー隊による演舞に取り組みました。よくある野外ステージや公的な施設などとは異なる、吹き抜けの独特の造りの中での演舞とあって、とても集中したパフォーマンスとなりました。エイサー隊は重さ7kgから10kgの太鼓を持ち、激しい踊りをしながら太鼓を叩き、合間には白塗りの仮装をして笑わせる「チョンダラ」役のヒトシさんが「太鼓を回復プログラムに取り入れて、いろんなメンバーと一緒にやっているが、約2年でここまで叩けるとは思っていなかった」と感想を述べました。エイサー隊一行は、地元鹿嶋市のまちづくり市民センターで開催中の「て~ら祭」でもステージ発表するため、昼食もそこそこに同センターを後にしました。

一方、午後からは神栖市の和太鼓演奏集団「鹿島灘太鼓」メンバーと、同センター入所者で結成した「潮騒太鼓連中」が合同で和太鼓演奏を披露しました。太鼓を指導している鹿島灘太鼓代表の島田正之さんは「薬物・アルコール依存から抜け出すには、こういう居場所が必要」と理解を求め、和太鼓を演奏した入所者のシュンさんは「覚せい剤を使い続けて人生を破壊した。刑務所を出てから1年9カ月しか経っていないが、潮騒で仲間たちと太鼓に出会えたことで、今では人生を取り戻す一歩を踏み出せている」と語りました。

### 社会や親を恨んでいたが、今では感謝している

太鼓演奏に先立って講話に立った栗原センター長は、 2歳の時に父親を戦争で亡くし、5歳の頃に母親の再婚 に伴い他の家に養子に出され、「冬の寒い時期に外で物 置のわらの上に寝た。白い犬がいて添い寝をしてくれ た。その犬に育てられたと言っても過言ではない」「親の



愛情から見放され、父親や母親がいないため"もらいっ子"と言われた。小学生頃からいじめられた」と幼少期を振り返りました。

その流れで「13歳頃から飲酒を始め、酒さえ飲めば怖いものは無かった。中学卒業後は少年鑑別所を経て地元の暴力団に入ったが、子どもの頃から強いものに憧れた。ヤクザに疑似家族を求めていたのかもしれない」と明かしました。しかし、アルコールや薬物で身を持ち崩し、暴力団の世界でも行き場を失いましたが、ダルクに繋がって薬物・アルコール依存を断ち切ってからは人生が一変、「長く社会や親を恨んでいたが、今では感謝している」と締め括りました。この日、聞き役だった潮騒太鼓隊や鹿島灘太鼓のメンバーらは初めて栗原センター長の過去に触れた人も多く、壮絶な体験を経た60歳を超えての回復人生にエールを送っていました。

「〈わたしの企画〉 応援します!」は、茨城県を中心に北関 東で約100店舗のスーパーマーケットを展開するカスミ グループが、つくば市に新社屋を建設したのを機に、同社 屋を地域に開放する目的で1993年から取り組んでいる 独自の社会貢献活動です。個人ではなかなかできない企 画を実現させるために場を提供し、活動資金の一部と人 的サポート。これまでに770件の応募があり、89件の企 画が実施されたといいます。同センターを一企業だけの ものではなく市民活動の交流の場、文化発信の場にしよ うという同社の熱い願いが込められています。従来の、採 択を受けた複数の団体がその年の後半に取り組む企画 とは別に、「小づくりの手づくり文化祭」として今年からよ り多くの団体が参加できるように門戸を広げ、採択団体 が一堂に会して同時に各イベントに取り組む新たな部門 を設置し、この日に初めて実施されました。この日、催さ れたのは潮騒JTC依存症フォーラムのほかに ▼つくばお もしろマジックサークル ▼黄門様と巡る「脳トレ物語」▼ 端材で楽しくものづくりをしよう ▼朗読の会「語り継ぐ 戦 争 の 悲 劇·茨 城 県 70 年 の 透 視 図」▼TSUKUBA OLIVE FESTIVAL でした。

### 受刑者からの手紙

### 自分も所内でスマープを自学自習している

当地では冬が駆け足でやって来ます。まだ初雪は降っていませんが、だいぶ寒くなりました。皆様お変わりありませんか。私は相変わらず。何とか一日も早く社会復帰して、母親の元に戻れるように我慢我慢の受刑生活を送っています。一つ報告ですが、工場内での私の仕事内容が変わりました。今までは「ニポポ」という人形?の彫刻作業をしていましたが、今度は木工場内の機械場で作業をしています。今はまだ機械作業の見習い中です。木工場での作業は初めてで、覚えるのがとても遅かったのですが、でも一つひとつ心を込めて丁寧に作業をしてきました。先頃、機械工場に指定された時、工場本担当さん(職員)が「今回の決定は推薦じゃなく、俺がお前の作業を見ていて選んだ。お前は仕事がとても丁寧で、数は多くなくても綺麗な製品を作っている。ずっと見ていて、そこを見込んだ」と言われました。私は、とても嬉しかったです。

工場には10種類以上の機械があるし、覚えるのも大変です。危険もありますが、せっかく工場担当さんが私を選んでくれたのだし、頑張って早く仕事を覚えて一人前になるようにします。焦らずに自分のペースを守り、頑張っていこうと思っています。今はまだ慣れなくて、交通事故での怪我の足、人工関節の痛みもありますし…。今まではずっと座っての仕事だったし、平成25年4月に入院、その後リハビリ途中での逮捕で、約1年の拘置所生活、そしてその後、当地に来ても椅子に座っての仕事で立つことはないので、最初は足が大丈夫かなという不安、仕事をちゃんと覚えられるかなと不安でした。が、毎日やっており、体のためにも立っての作業は、私にとって良かったことと、今は思っています。リハビリにもなりますしね。12ステップの3にある「自分で理解している神=ハイヤーパワー」に導かれているのだから、大丈夫だと!最近考えるようになりました。焦らず一歩一歩、努力することが大事だなと考えています。

ところで潮騒通信9月号にスマープ研修講座をスタートさせたとありましたが、スマープは薬物依存症治療の分野では第一人者の松本俊彦さんらが作成したプログラムですよね。潮騒のスタッフの皆様もスマープ・ファシリテーターのスキルを身につけるためにも頑張っている訳ですね。自分も先々、そうなれたらと思います。私もこのスマープには興味があり、同じワークブックを使って今できることをと思い、自学自習しています。やはり、具体的にアドバイスをしてくれる人がいるのはいいですね。今は受刑中の身なので叶いませんが、できるだけ自分でワークブックを使い自学自習して、出所後はこのスマープを生かしていこうと考えています。ダルクも、このスマープを取り入れているのは今年3月で16カ所とのことでしたが、茨城県では県立こころの医療センター(旧県立友部病院)、そして民間施設の潮騒 JTC となる訳ですね。各ダルクではこのプログラムに名前を付けているようですが、潮騒の場合はどういうネーミングになりますか!いろいろと大変だとは思いますが、今後とも皆様のご活躍を願っています。

### 60歳以上のボール運び競技で見事1位に輝く

前略。頂いたお手紙から、私も一人の病人として潮騒 JTC で頑張るぞという勇気が湧いてきました。ここでの生活も刑期の半分が過ぎ、目鼻がつきました。もう少しで 3 年を切ります。これからは、一つひとつ(自分の行動などを)良く考えて前に進んでいきます。話は変わりますが、先頃大運動会があり 私は 60 歳以上の競技でボール運びに出場しました。まだまだ駆け足には自信があり、見事 1 位を勝ち取って賞品にシャンプーを貰いました。とても助っています。60 を過ぎても体を鍛えているので、まだまだ大丈夫です。後は自分の病気である依存症を治すだけです。皆様と一緒に回復に向けて頑張る決意ですので待っていて下さい。それから最近、友人から本などを送って貰い、嬉しく思っています。友人はいいですね。感謝しています。末永く付き合っていきたいと考えています。また手紙を書きますのでアドバイスを宜しくお願いします。

受刑生活も晩秋になると冬への心構えが出てくるようです。特に冬の寒さが厳しい北国ではなおさらで、冒頭の挨拶には共通して その事が書かれています。受刑者の皆さんと手紙をやりとりする中で、潮騒では回復プログラムへの関心が高まってくることを期 待しています。現実はそう簡単にはいかないとしも、出所後のリハビリで比較的スムーズに回復プログラムに嵌り、就労支援プログ ラムにも取り組み易くなるからです。

### 薬が切れかかると凶暴になるのが自分の問題点

忙しい中、いつもお手紙を書いて頂き本当にありがとうございます。潮騒通信、毎号楽しみに読ませて頂いています。少し時期がずれましたが、8月号では真夏の海プログラムや商工夏祭り、神栖七夕祭りに加え各地のダルクフォーラムへの参加と、とても忙しく活動されている姿を拝見できました。また、太鼓演舞では皆さんの一致団結した姿が、とても力強く感じました。一日も早く皆さんと一緒に活動ができたらと思っています。

話は変わりますが、アディクション(依存症)は「忘れる病気」「否認をする病気」という事を聞いたことがあります。他にも孤立、罪悪感、無責任、コントロール障害などとも聞きます。どれも身に覚えがあり、反省していかなくてはと思っています。元々覚醒剤中毒だった私は、自分の家族が出来た事を境にしてアルコールへと依存対象が移行していったのですが、ついつい我慢ができなくなって薬に手を出してしまう、という事がよくありました。

それだけならいいのですが、薬が切れかかると必ずと言っていいほど凶暴になってしまい、人を傷つける事が多々ありました。今回起こした事件も、そんな覚醒剤依存の延長でのことでした。5年の判決を受けて、刑務所で無駄な時間を過ごしたとは思いたくありません。が、二度と同じ事は繰り返したくはありません。残りの刑期もあと1年と少しです。今後ともご厚誼のほど宜しくお願い致します。 (北海道 F・T)

### 戦線復帰したら潮騒の仲間と 依存症回復を目指す

今回ペンを執りましたのは、私の"戦線復帰"につ いてのご相談です。ご承知のように栗原センター長 が身元引受人になって下さったことで、現在は仮釈 放に向かっての教育のためにS寮という所で生活し ています。復帰日には潮騒 JTC のスタッフの方かセ ンター長が迎えに来る事になっており、誠に有難う ございます。それで、すぐに保護観察所に行かなけ ればならない訳ですが、センター長に1つだけお願 いしたい事があります。実は、この日は私の母親や 弟、妹達も来てくれる事になっています。保護観察 所での話が終わりましたら、母親や兄弟達ともいろ いろと話したい事もありますので、午後 1 時頃まで の時間を頂きたいので、この点についてご配慮願い ます。もうかれこれ8年ぐらいは、社会にいても母 親や兄弟達とも会っておらず、この機会にゆっくりと 話したいのです。どうか宜しくお願い致します。

そして無事に戦線復帰できましたら、潮騒JTCに入寮している方々と一所懸命に「依存症」という病気と戦っていき、回復を目指します。分からない事ばかりでいろいろとご迷惑をお掛けするとは思いますが、頑張って回復のプログラムに取り組みます。それではこの辺でペンを置きます。 (茨城県 T・M)

### 10 周年フォーラムと カスミイベントの成功を祈念

秋たけなわの今日この頃ですが、栗原センター長にはお変わりございませんか。私はといえば、朝晩は急激に気温が下がり体がついて行くのに大変な状況です。毎回、潮騒通信を通してセンター長や皆様の活躍を目にして喜んでいます。11月15日には10周年記念フォーラムが行われ、その1週間前の8日には茨城県内などにスーパーマーケットを数多く展開する、カスミグループが主催する「〈私の企画〉応援します!」のイベントがあるとのこと。その狭き門に選ばれた栄誉を共に心から喜んでおります。ぜひ両方とも無事に終わりますように心から念じております。

なお、9月に行われたリカバリーパレードも見事でしたね。潮騒通信の写真を見ながら、その素晴らしい活躍にひとりほくそ笑んでおります。ここに至るまでの努力が全てセンター長の指導にあると深く感銘しております。いずれにしても11月には潮騒 JTC に入寮できるかと思いますので、その節はどうか宜しくお願いします。寒さに向かうこれからの季節、十分に健康に留意されつつ、ますますのご活躍を心から祈念します。

### 3さい 排理

11 月のお題

鍋

選者桐本石見

### わが俳句人生の歩み・No.23

センター長 栗原豊

前回、刑務所で行われる秋の運動会について私の体験談を書いた。これに関して忘れられないエピソードがある。 競技種目に"タコ踊り"リレーがあることを記したが、その競技に出場した仲間に、大声で声援を送っていた。選手に選 ばれた受刑者は私の息子ほどの若い年代で、リレーでは1位に迫る走りを見せていた。前回、姪に充てた当時の手紙の 中でも、「この競技に出た受刑者は足が速くコース途中のタコ釣り場までは1位だったのに、そこでモタモタしていたた めに3位となり、ゴール前では2位まで戻したものの、慌てたのか肝心なタコを落としてしまい、最後はどん尻の6位 だった」と書いた、実際は落とした"タコ"を手でつかみ上げたので失格となっていた。

その際、私は彼の失態を面白がり、何の下心もなく子供のような無邪気さで「タコを落としやがって、このタコ」という 言葉を連発した。フーテンの寅さんが映画の中で言いそうな、ごくありふれたセリフだ。世間では、仲の良い仲間同士な ら何ら問題のない、むしろ場を和ます微笑ましい光景も、塀の中では事情が違う。日頃の素行を推し量る言葉として厳し く査定されるのだ。どうやら私の声援を、隣の席にいた工場の担当(オヤジ)は聞き逃さず、むしろ苦々しく聞いていたよ うだ。この取るに足らない、つまらない行為?によって私は懲罰を受けることになり、塀の中での処遇(等級)が 3 級か ら 4 級に落とされてしまった。そのため、楽しみだった手紙の発信が月1回に制限されてしまった。

運動会が終わって間もなく、隣同士だった2つの工場が仕切りを取り払って合併した。そこに私の不幸があった。隣 の工場の担当が新しく引き継いで私たちの担当になったが、何と私の声援を問題視した、あの担当だった。以来、私はそ の担当の前を緊張しながら、姿勢を正して「イチニイ、イチニイ」と行進した。 2 度と懲罰に見舞われることがないように と、ひときわ注意を払うようになったのだ。私にとっては笑うに笑えない苦い思い出だ。

ギン

此の獄舎(ひとや)慣れて住み居る寒の月

とが楽しく賑やかである。老いの身に冬を迎えて寂寥 族と言える。 囲炉裏など懐かしい、 冬には鍋を囲み湯気の中での食事が日本の古来の姿 ことに鍋物は恋人と二人か、 祖父、 父母、 子供等が居て家 家族や友人

囲な むん 今家で は族 無の 1

マ



で恋人と向い合いの鍋は楽しく美味しい。私も昔が懐 を生して世代を繋ぐべきと思います。 かしい句です。 昨今の 本来大自然の法則によれば男女は恋をし結婚し子 調査で結婚願望の 低下が問題視されています そんな理屈抜き

ラ Q てお ブ み鍋の た 专



安らぐ一時で家族団欒の懐かしい句です の向いに母がご飯などよそう顔がゆらぐ。 この名があり、 コ 寄鍋は鶏、 バ 母気の 魚、 00 煮ながら食べる。 貝 顏向 蒲鉾など各種 家族が揃い鍋の湯気 0 具を入れるので 子供にも心

特選句

湯鍋

シズ

### 秀逸句

### 今月の秀逸句

ヒロ

### レイコ

寄鍋

に家

族

0

笑顔

揃ひ

た

る

る。賑やかな家族を彷彿する句で明るい。とっても嬉しい、今夜は寄鍋かと笑顔がこぼれの周りに家族が揃うのは料理をして待つ母にありますが、冬の寒い夕べに子や夫が帰宅して鍋ありますが、冬の寒い夕べに子や夫が帰宅して鍋

## 母の情ことに籠りて季節鍋

**貧の具でも母の味は忘れ難い思いの句です。も母の丹精の心の籠る味で熱さも又嬉しい。昔は鍋、牡丹鍋、地名の石狩鍋などがあります。その鍋季節鍋は「冬の鍋の季節になった」の意で俳句** 

ミク

## 牡丹鍋頭寄せ合ふ姉妹かな

あ

しく艶冶の句です。舞いの連想からとも。姉妹の女性に牡丹鍋も相応桜鍋など付けました。獅子が牡丹に戯れる石橋の桜鍋など付けましたが、猪に牡丹、鹿に紅葉、馬にある名を付けましたが、猪に牡丹、鹿に紅葉、馬に昔の人は木や花にもまた地名などにも趣きの

## 闇汁に恐る恐るの箸を出す

の鍋に入れて煮えるの待って食べるが、思い掛け 闇汁は仲間が皆には内諸で具を持ち寄り席上

佳作

しい句です。 白く話題になる。昔に会社で一度行ったので懐かない具を摑むので箸を出すのも恐いがそこが面

イシダ

モト

シゲ

長吉

キド

青

ユタカ

大友

# あんこう鍋年に一度と振る舞ひぬ

オノ

サービスと振舞う。心の和む句です。一式の鮟鱇料理は高価だが、年に一度は家族への三鳥二魚と言い、鯛と鮟鱇が珍味であったとも。三鳥二魚と言い全てが食べられる。江戸時代は鮟鱇は大洗以北が有名で冬の時期の鍋料理。七

## 寄鍋や蓋を開けてのお楽しみ

でも母だけが知っている。楽しい句です。客には解らない、それもまた楽しみの一つ。家庭多く取れた魚など入れるので蓋を開けるまでお地方により特色があり、またその時の市場などに地は具の名を冠したのが一般的ですが、寄鍋は

### 大所帯二つ流儀の鍋奉行

ユタカ

かも知れません。面白い句です。とれも大家族の証。老夫婦二人より賑やかで良いいる。家でも男や子、女性などで何かともめるがじでも味の付け方や煮る順をとやかく言う人がしても大勢だと鍋が複数になり、具は同

あれもこれも口も手も出す鍋奉行
湯気の中汗の額に突く鍋
てっちりに籠めし想いも召し上れ
今宵鍋新婚生活熱々で
寒空や家族彩る鍋の湯気
闇汁や幼き友の今はなし
湯気の中目と目を合わす二人鍋
帰郷せし夕べに並ぶ土鍋かな
•

### どっこれも生きてます~我が回復記~ 「チハルの回復記」

(第5回

私は1971(昭和46)年に、共に両親が18歳の若い夫婦の長男として、この世に生を受けた。両親は出生の時には福島県に住んでいたが、その後はずっと都内で暮らしなので、私の記憶する故郷は東京である。家族は両親と4つ違いの妹の4人。幼児の出来事としてぼんやりと浮かび上がるシーンがある。私と母が2人きりの時になぜか停電に見舞われ、不安の中で母方の祖母の近くに引っ越しをしたのだ。そして私の自覚する記憶はここから始まる。

物心が付く頃には母の姉とその夫(叔父叔母夫婦)と娘2人(従姉妹)、そして母の実母(祖母)が近所に住んでいた。日常的に行き来しており、まるで一緒に一つ屋根の下に暮らしているような感じで大家族の構成だった。振り返れば幼年期はこれといって記憶に残る思い出はない。親友と呼べる幼友達との出会いも含め、幼少期の頃から常に周りには沢山の大人がおり、"ませガキ"だったのだろう。経済的に不自由を感じない暮らしだったから、他の家と比べることもなかった。



幼稚園は2年保育の近所の幼稚園に通った。同級生だった従姉妹と祖母、大好きだった母に手をとられながら通園し、毎日が楽しかった。友達も沢山できた。ただ、当時の私は引っ込み思案でシャイな一面もあった。平穏無事な毎日で、幸福な時間だったが、一つだけエポックとなる幼稚園での初恋体験があった。女系家族的な環境で育ったからか、異性への意識の芽生えは早かったのだろう。好きな女の子ができ、異性を意識し始めたのだった。その子に会うことと、密かに担任の先生も大好きになった。

そんな中で2年保育も無事終え、卒園をすると園児達は3つの小学校に分かれ巣立った。私はエスカレータ方式で区立小学校に入学した。クラスの中では通学距離が1番遠かったが、ピカピカの真新しいランドセルを背負い、仲良しの友だちがたくさんできて、遠距離通学も苦にならなかった。この年、私はある絵画コンクールで金賞を受賞した。また、この年の夏休みにはSF映画「スターウォーズ」が封切りされ、その日の記憶が鮮明に今も残っている。映画館で園児時代の初恋の彼女と再会したからだ。卒園後はお互い別の小学校に通い、顔を合わす機会もなかったが、運命的な再開?で子供ながらも心がときめいた。

小学1年生も無事終えると、私は家の都合で近所に引っ越すことになった。その結果、新しい住まいからの通学が踏み切りを渡るので危険だという、それだけの理由で通学区域が変わり、転校を余儀なくされた。しかし、それまで 1kmも離れていた学校が、玄関を出ると10mで正門に行けた。新しい学校には幼稚園の時の友達や従姉妹もいたから寂しくはなかった。すぐに学校生活に慣れて新しい友達も沢山できた。学校生活は楽しかったが、この時期から家庭に対しては寂しさを感じ始めるようになった。(この項続く)

※今月も回復記コーナーの連載を担う予定の広報部、マサヤが 10 周年フォーラム関連の作業で多忙を極めたために引き続き休載しました。ご了承ください。

### 11月のバースデイ

### カズ

1日も早く、退寮したいです。



皆様に誕生日を祝って頂き心から 感謝してます。御年80歳になりました。



この先、頑張れるだけ…頑張る。

### の行事予定

- 3日 平成27年度 「神栖市芸術祭·和太鼓発表会」
- 12日 潮騒俳句会
- 7・8日 第9回「て~ら祭」
  - 8日 カスミグループ主催 「<私の企画>応援します!」
- 8・21日 秋元病院メッセージ
  - 15 日 潮騒 JTC10 周年記念フォーラム
  - 22日 潮騒家族会
  - 26日 潮騒映画会

### 🝙 の行事予定

- 10日 潮騒俳句会
- 13・19 日 秋元病院メッセージ
  - 20日 潮騒家族会
- 24・25 日 潮騒クリスマス会
- 12・13 日 JA しおさい鹿嶋農産物直売所感謝祭
  - 24日 百寿亭クリスマス会
  - 28 日 潮騒年末恒例餅つきイベント
- 29・30 日 各ナイト施設年末大掃除

### 献金・献品を頂いた方 (11月15日現在)

・澤柳 千春 様

- ・石井 照明 様
- · 浜田 佐和子 様
- · 山田武郎/和子 様

・上田 隆靖 様

- ・小田倉 祐一 様
- ・内堀 高良 様
- · 潮騒家族会 様

- ・(株)トーマス 根本 芳光 様・佐藤 寛 様
- ・中込 良夫 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。 おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。 今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

### 10周年フォーラムお祝い金をいただいた方々

- · 小岩井 重光 様
- ・島田 正之 様
- · 鹿島灘太鼓 様
- · 佐藤 浩 様
- ・渋谷ダルク 様
- · 鈴木 浩二郎 様

・茨城ダルク 様

- ・橋爪 様
- · 百寿 加勢 誠 様

- ・富士五湖ダルク 様
- ・川崎ダルク 様
- ・千葉ダルク 様
- ・横浜ダルク 様
- ・ダルクウィリングハウス 様
- ・リカバリーファーム君津 様
- · NABA 鶴田 桃工 様
- · 本間歯科 本間百合子 様

- ・相模原ダルク 様
- ・小橋ひとみ 様
- ·家族会一同 様
- ・髙田武義 様
- ・築山 様
- ・内田 源一 様
- · 増古 四郎 · 富士男 様
- · 佐藤 絹代 様

- ・千葉菜の花 家族会 様
- ・富井 建 夫 様
- · 富井 俊明 様
- ・株式会社トーマス 様
- ・高橋 ふく子 様
- ·家族会 小林 久祐 様
- ・山梨ダルク本部 様
- · 石井 照明 様

### 潮騒通信 どっこい生きてます! 2015年11号

### **Contents**

- P2 潮騒JTC10周年フォーラムを終えて思うこと
- P3 潮騒JTC10周年フォーラム 「ターニングポイント~更なる 10 年へ」
- 平成 25 年度赤い羽根助成分
- P 8 カスミイベント「〈わたしの企画〉応援します!」
- P10 受刑者からの手紙
- P12 しおさい俳壇「鍋」
- P1 どっこい私も生きてます「チハルの回復記」 第5回

### ■編集·発行:

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

### 潮騒リカバリーホーム(中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

### 潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/



〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価 100 円(会費に含む) 1998年10月9日第三郵便物認可(毎月3回8の日発行)2015年11月12日発行 SSKU増刊通巻、第5292号